

ディスプレイ憲章

ディスプレイは
主題を空間に演出する伝達技術である
われわれは
企業間の相互理解に立ち
業界全体の繁栄をはかると共に
創造に徹し
技術を磨き
ディスプレイを通じて
社会に貢献する

CONTENTS

ディスプレイの眼 見つめ、見つめる	・ ・ 1
年頭のごあいさつ	・ ・ 2
新年賀詞交歓会開催	・ ・ 4
新年名刺広告	・ ・ 5
第6回東デ協親善 フットサル大会	・ ・ 8
next HERO わが社の新人紹介	・ ・ 10
東京デザイン巡り	・ ・ 12
青年懇話会 40周年記念事業 記念講演会	・ ・ 14
新規加入組合員紹介	・ ・ 15

ディスプレイの眼

「見つめ、見つめる」

恭賀新禧

365日という時間が最適であるかどうかは個人によって違うように思いますが、年末から年始にかけては、「足元を見つめ、この先を見つめる」自然が与えてくれた示唆に富んだプレゼントのような気がします。

さて、ご存知の方も多いと思いますが、社団法人日本ディスプレイ業団体連合会のHPに掲載されている、「ディスプレイとは？/ディスプレイ業について」が今年の夏に改訂されました。

「ディスプレイ業は、総合的な情報サービスの一環として、快適な空間・環境を創造する総合ビジネスです。単にモノの陳列や展示の造作物をつくるにとどまらず、人と人が交流する空間づくり、コミュニケーション活動の全般にわたってその機能を発揮します。各種展示施設、商業施設、文化施設、イベントなど、対象とする空間は広範囲にわたり、生活の全てに深くかかわっていると言っても過言ではありません。さまざまな情報伝達・体験を通じて、生活・文化を豊かにし、私たちの暮らしを快適にデザインし演出していくことが、ディスプレイ業のもつ重要な役割であると考えます。換言すれば、ディスプレイは「場」を媒体として「情報性」をプログラミングし、コミュニケーションをデザインし、人を集め、空間を活性化させる業務です。私たちの活動領域は、街や都市の至るところに広がっています。」と掲載されています。

365日のはじめに、このような「ディスプレイの目」(ディスプレイ業に対する認識)を通して、社業並びに自分の仕事を見つめてみてはいかがでしょうか。

祈 安居楽業

広報委員 鞠子 猛/株乃村工藝社